

# 雑草イネの侵入・拡大を防ぎましょう!

## ●雑草イネが県内で見つかりました!

平成24年の秋に、県内で雑草イネの発生が、初めて確認されました。雑草イネは長野県や岡山県で古くから広く確認されていますが、隣の茨城県、埼玉県でも散見され、関東各県にも広がりつつあります。

### 雑草イネの特徴

- ①芒が長く着色したり、また稈長が長いなど姿が違う。
- ②脱粒しやすい。(最大の特徴)
- ③粃が褐変したり、玄米が着色する(赤～紅色)。

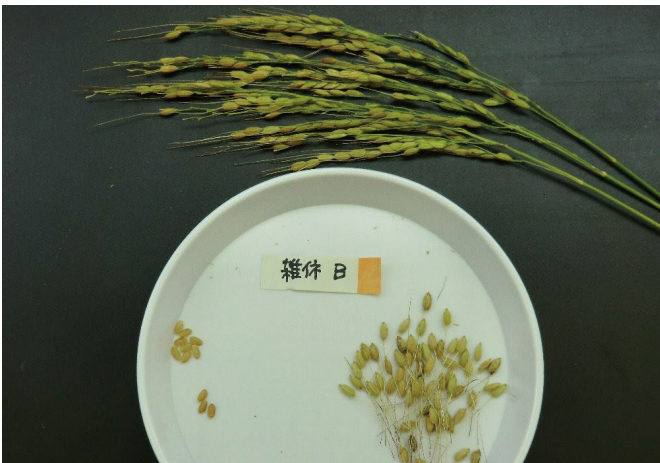
雑草イネは、古代米や在来の赤米とは違います。また姿形が普通のイネと異なるが、脱粒しないイネは、通常の異株(雑穂)ですので混同しない様にしてください。



周りのイネよりも稈長が長く早い(遅いのもある)



芒の長いタイプ(芒のないものもある)



握ると粃が落ちる(脱粒)。風でも脱粒する。



玄米は赤～紅色に着色、混入した状態。

- 脱粒しやすいので、圃場に落ちてどんどん増える。周りのイネの収量が減る。
- 玄米が着色するので、混じると品質が著しく低下し、甚大な損害をこうむる。

# 雑草イネの防除対策

## ●雑草イネを見きわめよう

平成24年、県内で見つかったのは県央～県東部の3カ所ですが、それぞれタイプが違います。

- タイプA** 熟期はコシヒカリ並。稈長は90cm程度。芒が長く、脱粒易、玄米はやや大きく濃い紅色。
- タイプB** 熟期、姿はタイプAに似ているが、芒はより長く多い。脱粒易。玄米は大きい。玄米は赤。
- タイプC** 熟期はコシヒカリより遅い。稈長120cm程度。無芒で籾は褐変。脱粒性は極易。玄米はやや小さく、紅色。

出穂期頃が発見しやすいので、稲の姿、芒の長短、脱粒しやすいかなどを目安に観察しましょう。  
周辺の圃場も観察し、侵入を未然に防ぎましょう。

## ●雑草イネを見つけたら徹底的に抜き取る



### 雑草イネの増える仕組み

雑草イネはきわめて脱粒しやすく、水田に容易に広がります。灌漑水で運ばれ水口から拡散したり、農作業機に付着しても広がります。堆肥にも混じります。

休眠性もありダラダラと発生する籾もあり、除草剤でも一度には防除できません。

発見したら株ごと抜きます。雑草イネは出穂後2週間には脱粒を開始するので、できるだけ早く抜きましょう。また、遅れ穂もあるので何回か、時期をずらして抜き取ります。抜いた株は早急に圃場外に持ち出して処分します。抜ききれないほど繁茂している場合は、刈り分けましょう。

## ●発生した圃場の機械作業は最後に行い、機械を良く洗って機械による拡散をさせない

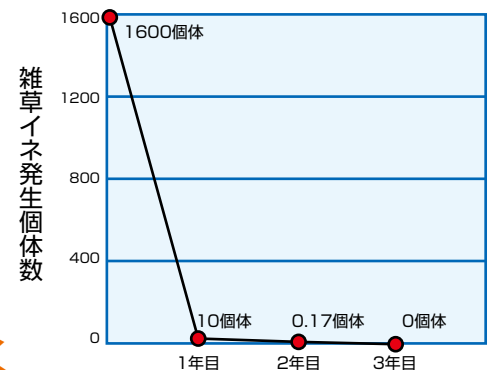
## ●発生した圃場は、秋耕せずに雑草イネの籾を鳥に食べさせ、さらに冬の寒さにさらして死滅させる

## ●自家採種のイネに混じっている事例があったので、必ず購入種子を使う

## ●次年度は効果的な除草剤を体系的に使う

雑草イネが発生した圃場は、次年度に除草剤で発生を防止します。まず、田植後3日以内にソルネット、エリジャン等の初期剤を処理し、7～10日以内にヒエに強い一発剤、さらに中期剤の体系防除を行います。(品目はJAや振興事務所に確認してください。)

## ●玄米に雑草イネが混じったら色彩選別機でぬく



徹底防除で必ず根絶できます

※発生を確認したら、早めに徹底して抜き取るとともに、JA等または最寄りの農業振興事務所にご連絡ください。